

小 5	受験 番号		氏 名	
-----	----------	--	--------	--

入塾試験サンプル

小 5

国 語

[注 意]

1. この「入塾試験サンプル」の問題数は、実際の入塾試験の問題を減らしたサンプル版となっています。
2. 実際の入塾試験では、問題によってはやや難易度が高い問題が出題される場合もあります。
3. 実際の入塾試験では、問題冊子と解答用紙は別々に分かれていますので、本番と同じように解答は解答用紙に記入して下さい。



Method for Essential Capability & Creativity



Method for Essential Capability & Creativity

1 次のそれぞれの文の——線部の、漢字は読み方をひらがなで、カ

タカナは漢字で書いて答えなさい。

- ① 自分のま^ちが^いを^省みる。
- ② 病^気が良^くなる^兆し^がある。
- ③ 国^をオ^サめる。
- ④ プ^リント^をイン^サツ^する。

2 次のそれぞれの問いに答えなさい。

問一 「街」という漢字は、漢和辞典の部首さくいんでは何という部首で調べますか。次からふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ぎょうにんべん イ おおざと
ウ ぎょうがまえ エ たけかんむり

問二 「帯」という漢字は、漢和辞典の総画さくいんでは何画の漢字に分類されていますか。次からふさわしいものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 九画 イ 十画
ウ 十一画 エ 十二画

3 次のそれぞれの問いに答えなさい。

問一 次のそれぞれの文について、のことばを修飾している(くわしく説明している)ことばを一つずつ選び、記号で答えなさい。

① たつで、かわいい、ネコが丸まっている。

② うちの、犬を、友達がかわいいがる。

問二 次のそれぞれの文について、のことばが修飾していることばを一つずつ選び、記号で答えなさい。

① ピアノを、特訓して、コンクールで、優勝した。

② ちゃんと、明日の、準備を、することが、エ大切だ。

問三 次のそれぞれの文のに入るふさわしいことばを、あと

から一つずつ選び、記号で答えなさい。

A かべにぶつかったとしても、あきらめない。

B この手紙を、あの子に届けてください。

ア 決して イ どうか

ウ たとえ エ まさか

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

小学五年生の男の子、悠希は引つ込み思案な性格から、クラスの男子の中になじめずにいた。次第に男子にからかわれるようになり、孤立していつてしまふ。ある日、放課後に立ち寄った公園で穂乃果と出会う。穂乃果も、クラスになじめず、不登校になっていた。二人は夕方になると公園で話をするようになり、親しくなつていった。

「お前ら、やつぱり付き合つてるんだろ」

クラスのボスのような存在の男子が、にやにや嫌な笑みを浮かべる。その言葉に続くように、ほかの男子たちも口々にはやしたてた。

「女が女と付き合つてんのかよ」

「オナオトコのかせに、気持ち悪いやつ」

ぼくは何も言い返せず、唇をかんでうつむいた。教室で感じていた息苦しさを覚える。こんな姿を、穂乃果に見られなくなかった。穂乃果と一緒の公園は、ぼくにとつて安らぎの場だったのに、今はもう跡形もなくぐちゃぐちゃに壊れてしまった。

「どうせ女に守ってもらつてるんじゃないの」

意地の悪い笑い声があがる。ぼくはただ地面を見つめ続けていた。

「だったら、何？」

凜とした声が聞こえた。驚いて顔を上げたのは、ぼくだけではなかった。さっきまでバカにするような笑みを浮かべていた男子たちも、目を丸くして穂乃果を見ていた。(ア)

「女が男を守って何が悪いの？ あんたたちなんて、そうやって何人かでつるんでいなきや何にもできないかせに。あんたたちの方が悠希よりよっぽど弱虫じゃない」

穂乃果は自分より体の大きい男子たちにも、ひるむことなくそう言い切った。さつと空気が変わるのを感じた。あんなによどんでいた空気が、重さを失つて軽くなり、風が吹き抜けたかのようなすがすがさがあった。

「な、なんだよ……」

「てきとうなこと言つてんじゃないよえよ」

「自信がないんでしょ？ 一人で戦つことすらできないのよね。だから仲間を作って人をけなしているんでしょ。そんなの弱い人間のすることじゃない。一人で耐えてる悠希の方が、あんたたちよりずっと強いよ！」

穂乃果は男子に向かって、力強く言い放った。(イ)

「なんだよ、女のくせして凶暴だな」

「ゴリラ女なんじゃねえの」

気圧されていた男子たちは、負けじと穂乃果の悪口を言いはじめる。矛先がぼくから穂乃果に変わったのを見て、^②体の奥からふつふつと熱がのぼってきた。

「穂乃果の悪口言うな！」

その瞬間、公園内の時間が止まったように感じた。男子たちが驚いているのが分かる。自分でも驚くほどの大声だった。公園内はしんと静まり返っていたが、ぼくの心臓はバクバクとうるさかった。それまで心のすみっこで縮こまっていたはずのぼくが、勇ましく立ち上がるのを感じた。男子たちをそのまま鋭くにらみつけると、やつらは小さく「行こうぜ」と言って公園から出て行った。

ぼくは大きく息を吐き出した。無意識に呼吸を止めていたらしく、走り終えた後のように息が切れていた。——初めて、言い返した。

「……ごめんね、悠希」

沈黙を破って、穂乃果が言う。ぼくは、慌てて「何が？」と尋ねた。

その声は不意を突かれて少しだけ上ずってしまふ。(ウ)

「あたし、余計なことしたよね……あたしが不登校になったのも、こうして出しゃばったのが原因なの」

「……そう、なの？」

ぼくは、穂乃果が謝った理由が分からなかった。いつもやられっぱなしで、黙って耐えるだけだったぼくと違って、穂乃果は男子たちに立ち向かっていた。かつこいい、と思った。

「あたしのクラス、いじめがあったんだ。いじめられてたのはあたしの親友。それで、いじめていたやつらに、こんな風に突っかかっていたの」

ぽつりぽつりと言葉を重ねる穂乃果。ぼくは静かに耳を傾けていた。

「そうしたらさ、次の日からあたしがいじめのターゲットになった。でも、そんなの別に平気だった。あたし、そんなことで折れるような人間じゃないもん」

「……と穂乃果は呟く。(エ)」

「ただどね、あたしの親友が、それまでいじめてたやつらと一緒になつて、あたしの悪口言ってたの……聞いちゃったんだ」

まるで絞り出すような言い方だった。その時のことを思い出してい

るのか、穂乃果の体はふるえて、こぶしはぎゅうつと握り締められていた。

「いつもそうなの。あたしのしていることは、正しくないのかなって……悠希にも無理させて、本当にごめん」

「違うよ！」

言葉が口を突いて飛び出した。思わず、大きな声で言っていたことに気づいて、慌てて口をつぐむ。穂乃果が少し驚いたような様子で、こちらを見ていた。熱が入って声が大きくなるように気をつけながら、ゆっくりと口を開いた。

「初めて言い返せたんだ。無理なんかしてない。むしろ、言い返せずに我慢していた時の方が、ずっと苦しかったし無理してたって気づいた。穂乃果のおかげで、あんな風に言えたんだと思う」

はつきりとそう伝えた。③これまでのぼくとは明らかに違うものが、内側にあるのを感じていた。それは、穂乃果がくれたものに違いなかった。

「明日から、ぼくもちゃんと自分の気持ち、言ってみるよ」

自然と笑顔がこぼれた。穂乃果はそんなぼくを見ると、それまで硬かった表情をやわらげて、ふふつと笑う。

「悠希ががんばるなら、あたしも……がんばってみる。実は親友がさ、ずっと話をしたいって言ってきたの。それをあたしは、怖くてずっと無視してた。でも、ちゃんと話し合ってみる」

ぼくらはすつきりとした笑顔でうなずき合った。

その時、夕暮れを告げる音楽が遠くから聴こえ出した。公園は夕焼けで赤く染まり、二人の影は長く伸びていた。

問一 本文中からは、次の一文がぬけおちています。どこにもどすが最もふさわしいですか。本文中の(ア)～(エ)から選り、記号で答えなさい。

「その声はふるえていて、続きを聞くのがどこか怖い感じがした。」

問二 —— 線①「弱い人間のすること」とありますが、具体的にどのようなことですか。「男子たちが」こと。」につながるように、十五字以内で「、」や「。」も字数に数えます)答えなさい。

問三 —— 線②「体の奥からふつふつと熱がのぼってきた」とありますが、このときのぼくの気持ちとしてふさわしいものを次から一つえらび、記号で答えなさい。

- ア みじめな姿を穂乃香に見られて恥ずかしい気持ち。
- イ 男子が穂乃香に悪口を言うことへの怒りの気持ち。
- ウ 男子が穂乃香に悪口を言い始め、あせる気持ち。
- エ 自分だけでなく穂乃香も悪口を言われ、悲しい気持ち。

問四 —— 線③「これまでのぼくとは明らかに違うもの」とはどのようなものですか。ふさわしいものを次から一つえらび、記号で答えなさい。

ア いじめられても「いやだ」とはつきり言えない自分に対するもやもやした気持ち。

イ 女の子に守ってもらうことが恥ずかしいので、いじめられても明るく前向きに耐えていこうという覚悟。

ウ いやなことはいやと、自分の気持ちをきちんと相手に伝えていこうという決意。

エ 自分以外の誰かをいじめの対象とすることで、自分はいじめの対象から外れようという考え。

問五 本文中から、穂乃香はどのような人物だと分かりますか。次の

中からふさわしいものを一つえらび、記号で答えなさい。

- ア 悪いことが起きても、文句を言わずに明るくふるまう人物。
- イ 嫌なことをされても気にしない、おてんばな人物。
- ウ 正義感が強く、誰に対しても物おじしない強気な人物。
- エ きついことを言われても、だまって受け入れる優しい人物。

問六 本文の内容に合っているものを次から一つえらび、記号で答え

なさい。

- ア ぼくは穂乃香にかばってもらったことで、女の子に守られて
いると思いい、不満を感じている。
- イ 穂乃香はぼくがいじめられているのを見て、自分なら勝てる
と思いい、男子たちに立ち向かった。
- ウ ぼくは、男子に対して堂々^{どうどう}としている穂乃香の姿を見て、自
分も立ち向かおうと勇氣を持つことができた。
- エ 穂乃香と付き合っていると男子たちからかわれ、ぼくは
不愉快^{ふゆかい}に感じて、顔をあげられなくなった。

(これで問題は終わりです。)

解答

① かえり ② きざ ③ 治 ④ 印刷

2 問一 ウ 問二 イ

3 問一 ① ア ② イ

問二 ① ア ② ウ

問三 A ウ B イ

4 問一 エ

《解説》脱文挿入の問題です。まず、抜けている文を読み、ヒントを探します。①接続語 ②指示語 ③文の内容の三つをチェックしましょう。今回は、②の指示語「その(声)」とあります。また、③の文の内容から、声は穂乃香のものであり、「怖い感じ」を受けているのはぼくだと分かります。さらに、穂乃香の声はふるえており、話は「怖い」と感じる内容だということも分かります。以上をふまえて、あてはまる場面を探していきましょう。

問二 仲間を作って人をけなしている

《解説》傍線部が引かれている一文を読むと、「そんなの弱い人間のこと」と指示語があることに気づきます。指示語があることから、近くに答えとなる言葉があるはずですが、前の文を読みに行くと、「弱い人間のこと」とはどういうことなのか、穂乃香のセリフから読み取ることができます。

問三 イ

《解説》気持ちを問う選択問題です。傍線部が引かれている文だけを見るのではなく、もう一度本文に戻って、「できごと」↓気持ち↓行動・表情・セリフ」という流れを整理しましょう。今回は、直前に「男子たちが穂乃香の悪口を言う」というできごとがあり、後の文で、「悠希が『穂乃香の悪口を言うな』と大声を上げた」「男子たちを鋭くにらみつけた」とあります。これらのことから、悠希に怒りの感情があることが分かります。

問四 ウ

《解説》選択問題は、選択肢を見る前になる程度、答えを考慮しておきましょう。この問題も気持ちを問う問題です。「できごと」↓気持ち↓行動・表情・セリフ」を確認しましょう。「これま

でのほくとは明らかに違うもの（気持ち）」から発されたセリフがヒントです。傍線部の前後のセリフを確認してみましょう。

問五 ウ

《解説》問題文には解答のヒントがあります。「この文章全体から」「本文を通して」という言葉があった場合は、本文中の一部分にでてきた内容を選ぶのではなく、全体に関わる内容^{かか}を選ぶことがポイントです。また、登場人物が多い場合は、それぞれどういう人物なのかつかみながら、読み進めるようにしましょう。本文から読み取れないものは外して、より正答だと思える選択肢を選びましょう。

問六 ウ

《解説》当てはまりそうな答えがあつたとしても、しっかりと全ての選択肢を読み返しましょう。なんとなくよさそうな解答であつても、一部分が本文の内容とちがうことがあります。本文から読み取れない内容の選択肢を選んではいけません。迷った時は、必ずもう一度本文にもどって、読み返すことが大切です。